

アカムツの輸送と飼育について

中畑 勝見（島根県立宍道湖自然館ゴビウス）

アカムツ *Doederleinia berycoides* は、青森県以南の水深 60～600 メートルに生息するホタルジャコ科の魚類である。身の脂の乗りが良いことから、重要な水産資源となっており、島根県でも底曳網等で年間 200～500 トンが漁獲されている。生きた状態での捕獲が難しいことから水族館等で展示される事例はほとんどないが、新潟市水族館マリンピア日本海では、人工授精と稚魚の育成に世界で初めて成功し、常設展示を可能にしている。

今回、ゴビウスの特別展「魚屋さんの生きもの展」で、アカムツを展示するため、同館の飼育個体を譲り受け、新潟から出雲までの輸送を試みた。音や光の刺激に敏感なうえ、死亡すると多量の粘液を出すといった特性を持つため、全長 10～15 センチの小型個体を 1～2 個体ずつビニール袋に入れ、海水と酸素を封入する方法を採用した。これを発泡スチロール箱に 2～3 袋ずつ収容し、同封した保冷剤で水温を 13～14 度に保ちながら、航空貨物として空輸した。

梱包から開封までの実質輸送時間は約 8 時間で、13 個体中 12 個体を良好な状態で輸送することができた。展示水槽では、昼間は底層で静止、夜間は中層で比較的活発に遊泳する傾向が見られた。



ゴビウス初となったアカムツの展示（2019年 特別展）

「アカムツ」よりも地方名「ノドグロ」の方がよく使われる